

（あの業務は先に済ませておいたほうがいい）（これは危ないから片付けておこう）とせっかくな気がついていながら、後回しにしてしまい、（やはり、あの時にしておけばよかった）と後悔したことはないでしょうか。

失敗や事故の原因は、慣れや慢心による甘い判断であるケースが多いといわれます。『万人幸福の葉』には『気づいた時、気がるに、喜んでさっと処理する』『気づくと同時に行なう』—これは成功の秘訣、健康の秘法である—「気づいた時—それは、その事を処理する最高のチャンスである。それをのばせば、次第に条件がわるくなる。事情の最も高潮に達した時、その波動が、人の脳に伝わって気がつくようになってい—と記されています。

朝に目が覚めたらすぐ起きる「朝起き」の実践や、気づくと同時に実行する「即行」の実践をすると、気づきの感覚が研ぎ澄まされていきます。

何かをしようと気づいたら、すぐする、気づくと同時に行なう。あの人を訪ねようと思いついたら、すぐに訪ねる。この習慣をやめようと思ったら、すぐにやめる。すると他にも必要なことにどんどん気づけるようになり、大きな問題を未然に防げるばかりか、的確な判断力、決断力が身につくのです。

「気づき」を分析すると三種類あることが分かります。

第一は「経験や知識からの気づき」です。自分自身の過去の経験、そこでの失敗や成

## 叡智である気づき に向き合う



功をもとにした気づき、学問から得た知識からの気づきです。

第二は「五官からの気づき」です。文字通り、目や耳、そして鼻や口から得た感覚をもとにした気づきです。

第三は「第六感による気づき」です。これは生命感覚の気づき、研ぎ澄まされた感覚に生ずる次元の高い気づきともいえ、人間を生かす目には見えない偉大な力、宇宙の営みによる気づきです。純粹倫理という気づきは主にこの気づきを指します。

◆ 飲食店を全国に展開するY社長は、二〇二〇年一月初旬、多くの店を閉じる決断をしました。それはある朝、いつものようにニュースを見てみると、諸外国の感染状況が報道され（飲食店事業は縮小したほうが良い）と強く直感したからでした。当時は従業員や飲食店仲間からも猛反対を受けましたが、翌月以降、日本でも感染症の報道が過熱していったのです。

そんな最中、Y社長は自身の気づきから早い時期に閉店を決定し、三月初旬にはその作業を終えていました。そして代わりに、通販事業やその他事業に力を注ぐことで、従業員を解雇せずにコロナ禍を乗り切ったのです。現在は飲食店の再オープンに向けて奮闘しています。

このように、第六感で理論では説明できない的確な判断を下せたケースは多々あります。「気づきは叡智である」と心得て、自身の気づきに向き合ってみましょう。